

## 優秀賞（中学校部門）

私が描くわかやまってこんなまち

田辺市立東陽中学校 一年 嶋中 来夢

私は、今から十六年後、二〇四〇年頃の和歌山が、大人だけではなく子供も住みやすい町になってほしいです。そうすると、今よりももっと豊かで幸せな町になると考えたからです。

しかし現在の和歌山は、そもそも子供の数も減ってしまっています。その理由の一つとして考えられるのは、子育てがしにくい環境だと思われる事です。確かに、最近は共働き世帯が増えているのに対し、和歌山では子供を朝早くから、もしくは夜遅くまで預かってくれる場所などは減ってきているようにも感じます。ですが私は、和歌山は子供が育つのにぴったりな所だと思っています。例えば、ありきたりかもしれませんが、沢山の自然。海や川、山もあるので、子供が毎日すこやかに育っていくのに適していると思います。また、お祭りなどのイベント事も盛んです。七夕など季節のイベントはもちろん、地域特有の行事や花火大会、田辺市で産まれたとされる弁慶に関する祭りなどもあります。更に、和歌山には世界遺産があります。歴史を知るきっかけにもなりますし、私も実際に学校の授業で世界遺産についての学習をした事があります。このように、和歌山には豊かな自然や遊べる場所、学びの場が充実しているのです。

そんな和歌山に子供を増やすには、幼稚園や保育所を増やす事であったり、子育て世帯の方を応援したりする事が必要だと思います。今行われている取り組みは、役所の子育て支援やファミリー・サポート・センターなどの子育て応援です。ですが、私は取り組みを知って感心するだけでは意味が無いと思うので、今の自分にできる事や将来の自分にできる事がなにか考えてみました。

そして思ったのは、まずは「知る」事かなということです。田辺の良さ

を知らなければ誰かに教える事はできないし、自分にできる事はどんな事なのか知らなければ行動する事もできないのです。だからまずはそれを知って、自分にできる事を一つずつでもしていききたいです。

そして、将来の自分にできる事がどんな事なのかを調べてみると、様々な職業で子供の成長や子育てをする方をサポートできるのだと知りました。例えば、幼稚園、保育所の先生。それから、学校の先生に子育てアドバイザー。また、図書館や習い事を教える先生、塾の講師として働く事も、将来の自分にできる事の一つかなと思います。

このように、私は和歌山の良さと課題を考え、自分にできる事を知り、二〇四〇年頃の和歌山が大人だけではなく子供も住みやすい町であってほしいと思い描きました。二〇四〇年頃は、私が二十八歳で自分の子供がいてもおかしくない年齢です。だからこそ、自分だけが過ぎやすい町なのではなく、自分の子供達、自分の次の世代の子達に続いていくような町であってほしいです。